学校番号	412

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	発展世界史	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	世界史探究「詳説世界史」　（山川出版）						
副教材等	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 世界史探究マスター問題集（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「歴史総合」「世界史探究」において学んだテーマをより深く掘り下げると同時に、古代から現代までの歴史の流れ、枠組みを概観する。「世界史探究」と同様に、学習内容・範囲も広く、進度も速いため、日々の予習・復習は欠かせない。ダイナミックな世界史の学習を通じて、今日起こっている様々な事象の背景を理解し、グローバルな視点を育ててほしい

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を育成するとともに、一般教養としての知識の定着および受験に対応できる力を養う。

【知識及び技能】

世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、様々な資料や情報をもとに調べまとめる。

【思考力、判断力、表現力等】

世界の歴史の大きな枠組みを、多角的・多面的に考察し、現代社会の諸問題解決に向けて考察・構想する。

【学びに向かう力、人間性等】

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者としての自覚を持つ。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する態度についての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第Ⅰ部　諸地域の歴史的特質の形成	文明の成立と古代文明の特質 中央ユーラシアと東アジア世界 南アジア世界と東南アジア世界の展開 西アジアと地中海周辺の国家形成 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	a: 古代文明、南アジア・東アジア・アメリカ大陸・中央ユーラシアの地域の特徴と歴史について理解している。秦・漢、魏晋南北朝、隋・唐、南アジアの宗教・社会、インド古典文化、東南アジアにおいて、どのように国家が形成されたのかを理解している。アケメネス朝はじめイラン諸国家、アテネ民主政、ギリシア文化、ローマが帝国、ローマ文化の特徴、キリスト教、イスラーム教、西ヨーロッパと東ヨーロッパなどについて、理解している。資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 b: 文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、表現している。資料などを多面的・多角的に考察し表現している。ハンムラビ法典・『旧約聖書』、「女史箴図」、インド洋航海図、『エリュトゥラー海案内記』、「ペリクレスの演説」、キリスト教・イスラーム政権の地図やアラベスクなどの図像資料などを多面的・多角的に考察し表現している。 c: 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	提出課題 授業態度 発問評価

2学期	第Ⅱ部　諸地域の交流・再編	イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ヨーロッパ世界の変容と展開 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 大交易・大交流の時代 アジアの諸帝国の繁栄 近世ヨーロッパ世界の動向	a: イスラーム化の進展、中世西ヨーロッパの特徴、ビザンツ帝国・その周辺のスラヴ人、封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程、10～12 世紀の東アジア、モンゴル帝国、「世界の一体化」とヨーロッパの海洋進出、オスマン帝国とサファヴィー朝、清朝、ルネサンス、宗教改革、主権国家など、それぞれにおける内容を理解している。 b: 資料をもとに、イスラームの拡大、トルコ人の進出・十字軍遠征、モンゴル勢力の襲来などを、多面的・多角的に考察し表現している。中世都市の図像資料、大憲章や金印勅書などの資料、「清明上河図」などの図像資料、モンゴル帝国の最大領域を示す地図、大航海を示す地図などをもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。ルネサンスを多面的・多角的に考察し表現している。「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』、ウェストファリア条約の内容をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	提出課題 授業態度 発問評価

	第Ⅲ部　諸地域の結合・変容	産業革命と環大西洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と世界の変容 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	a: 産業革命、アメリカ合衆国の独立、フランス革命やナポレオンが台頭した背景、中南米諸国の独立、19 世紀前半のヨーロッパ情勢、ウィーン体制や1848 年革命などについて、特徴とあわせて理解している。19 世紀後半のヨーロッパ情勢、南北戦争、イスラム諸国における動揺や改革の推移、ヨーロッパ各国によるアジアの植民地化の経緯、列強による世界分割とアジア各地における改革や民族運動、第一次世界大戦とロシア革命、大戦後の国際秩序、世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応、ヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動きについて理解する。 b: 諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現している。産業革命、アメリカ独立宣言や「権利の章典」などの資料、「旧体制」の風刺画、人権宣言などの資料を多面的・多角的に考察し表現している。中南米諸国の独立、ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図・図像資料、イタリアとドイツの統一を示す地図、アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や写真などの図像資料を多面的・多角的に考察し表現している。東南アジアの植民地化の地図、アヘン戦争を描いた図像資料、列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察し表現している。第一次世界大戦に関する図像資料、「十四カ条」などの資料、民族運動の様子を写した図像資料もとに、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	提出課題 授業態度 発問評価

3学期	第Ⅳ部　地球世界の課題	冷戦と第三世界の台頭 冷戦の終結と今日の世界	a: 冷戦の進展、第三世界の台頭、キューバ危機、ベトナム戦争など 1960 年代以降の冷戦体制の動揺やその推移、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解している。冷戦がどのような過程をたどって終結したのかを理解している。冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解している b: 「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。統計資料をもとに、オイル＝ショックが世界の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。各地の状況を写した図像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 冷戦の展開、第三世界の台頭とキューバ危機、冷戦体制の動揺、オイル＝ショックとその影響、冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。	小テスト	提出課題 発問評価 授業態度	提出課題 授業態度 発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度